

移植医療とドナーアクション

臓器提供の意識向上へ

外科学講座 呼吸器外科学 教授 やまね まさおみ
山根 正修

私は医師になって以来、留学先のカナダやスリランカ、ベトナムでの肺移植経験を含め長年、呼吸器外科医として移植医療に携わってまいりました。今回は移植医療とドナーアクションについてご紹介いたします。

臓器移植手術は機能不全に陥った臓器を摘出し、不幸にも脳死状態となったドナー（臓器提供者）の健康な臓器を移植する医療です。臓器機能不全により死を余儀なくされた患者さんにとってまさに天からの恵みともいえる医療であり、それもドナーとそこそご家族の尊い意思により初めて供与される恵みです。

免疫学的には移植された臓器（ドナー抗原）は患者さんにとっては“異物”として反応してしまい、いわゆる拒絶反応が長年問題となってきました。近年、免疫抑制剤の開発とともに移植臓器の定着率、レシピエントの生存率が向上しました。日本では移植後5年で移植者が生存している割合（生存率）は、心臓、膵臓、腎臓で90%を超え、肝臓80%、肺、小腸は70%を超えます。

日本では最近まで脳死ドナー数は年々増加していましたが、ここ数年横ばい状態となっております。改正臓器移植法施行後の臓器提供数は2021年8月25日時点で 688例（家族承諾：539例＋意思表示あり：149例）です。

2019年8月24日、当院に入院中の40歳代の男性（原疾患は低酸素性脳症）より心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓のご提供がありました。島根県での脳死下臓器提供者は、この方が最後となっております。島根県を挙げてのドナーアクション（提供を増やすための取り組み）が必要です。骨髄バンクの提供希望登録者数をみると人口千人当たり全国平均9.55人（鳥取県11.65人、山口県6.47人）に対して島根県は20.8人（全国3位）と群を抜いて多く、県民に高い意識があることが分かります。同様に潜在的な臓器提供の意思をお持ちの方は数多くいらっしゃるかと推定できます。

不幸にも脳死状態となったご本人、ご家族の尊い意思に応えるべく、状況によってはECMO（体外式膜型人工肺）やIABP（大動脈内バルーンポンピング）など補助循環装置を用いて臓器提供につなげる医療もなされています。こうした医療者側の意識の向上、臓器提供のための“医療”に向かう姿勢もドナーアクションには不可欠です。島根大学では学生、教職員への医療教育、啓発活動を通して組織的にドナーアクションへ取り組んでいきます。

お問い合わせ しまねまごころバンク（ヘルスサイエンスセンター島根） TEL:0853-22-2556



島根県オリジナル臓器提供意思表示カード

健康保険証裏面の臓器提供意思表示

健康保険証 本人（保険持主） 00123
氏名 山根 正修 性別 男 生年月日 1980年10月 交付 123456
住所 島根県松江市 1-1-1 2410
電話番号 0853-22-1111 1111
事業所住所 島根県松江市 1-1-1 1111
事業所電話番号 0853-22-1111 1111
健康保険証 裏

「意思表示欄（前）」

注意事項 保険医療機関等において診療を受けようとするときは、必ずこの証を
全員の意はでさせていただきます。

以下欄に記入することにより、臓器提供に関する意思を表示することができます。
記入する場合は、1から5までのいずれか1つを必ず記入してください。

1. 私は、脳死後及び臓器提供した死後においても、臓器提供の意思を表明します。
2. 私は、心臓の停止した死後に限り、臓器提供の意思を表明します。
3. 私は、臓器提供しません。
4. 私は意思が固くありません。臓器提供の意思を、2をつけてください。
【心臓・肺・肝臓・膵臓・腎臓・小腸・臓器】

（印）
署名年月日 年 月 日
本人署名（自署） 家族署名（自署）

健康保険証 裏

健康保険証裏面の臓器提供意思表示

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

10月15日～11月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所（★印 学外開催）	対象者	主催者
10/17(日) 14:00～15:30	日本脳卒中協会島根県支部 第16回市民公開講座	島根大学医学部附属病院 ゼブラ棟2階	一般	島根大学医学部附属病院 脳神経外科
10/20(水) 14:00～15:30	医学系研究基本講習	Live配信	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
10/27(水) 14:00～15:00	臨床研究・統計セミナー	Live配信	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2021年
10月
Vol.96

NEWS



CONTENTS

・脳卒中ケアユニットがスタートしました
・腎移植センター再開します！

・移植医療とドナーアクション
ー臓器提供の意識向上へー
・研修会・講演会・セミナー開催情報



脳卒中ケアユニットがスタートしました

高度脳卒中センター センター長 教授 はやし けんたろう
林 健太郎

高度脳卒中センターが開設されて1年が経過しました。24 時間体制や脳卒中ホットラインを開始し、救急ナースや放射線技師の協力を得て、救急治療は全国レベルに達しています。救急隊や離島を含めた県内の先生方からのご連絡も増えてきており、脳卒中の患者さんが集中治療室の病床の多くを占める場合もあります。

この度、10 月から入院後の治療を強化すべく脳卒中ケアユニットを開始しました。脳卒中ケアユニットは脳卒中専門の集中治療室という位置づけで、高度脳卒中センターのメンバーが 24 時間対応し、専門看護とリハビリテーションにより患者さんの回復を促します。脳卒中診療ガイドライン 2021 でも脳卒中ケアユニットでの診療が強く推奨され、全国で約 150 の施設に設置されています。

山陰地方では当院がはじめて、脳卒中ケアユニットを開設しました。3床から暫定的に開始し、2022 年4月からは6床で稼働する予定です。脳卒中ケアユニットは高度脳卒中センターの中核となり、多職種が連携した脳卒中診療と人材育成という役割が期待されます。地域の先生方ともに全国レベルの脳卒中診療を目指します。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

I 脳卒中一般

2 脳卒中急性期

2-3 Stroke Care Unit (SCU)・Stroke Unit (SU)

推 奨

▶ 脳卒中急性期症例は、多職種で構成する脳卒中専門チームが、持続したモニター監視下で、集中的な治療と早期からのリハビリテーションを計画的かつ組織的に行うことのできる脳卒中専門病棟である Stroke Unit (SU) で治療することが勧められる (推奨度 A エビデンスレベル高)。

出典：脳卒中治療ガイドライン2021 一般社団法人日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 (株)協和企画 978-4-87794-222-9

脳卒中ホットライン TEL:090-2750-7524
救急隊、医療機関専用ダイヤルです

腎移植センター再開します！

腎移植センター センター長
副センター長

わだ こういちろう
和田 耕一郎 (泌尿器科)
むろのい ともひろ
室野井 智博 (高度外傷センター)

活動を休止していた当院の腎移植センターを再開します！！

コロナ禍の影響はまだまだ続きそうですが、「腎不全医療に待ったなし」の状況です。予定手術である生体腎移植は準備を進めながら待機して頂いておりますが、心停止および脳死に際し、尊い意思でご提供頂く臓器に対しては一刻の猶予もなく、また誰にも待ったをかける権利はないからです。

腎移植によって寿命が延び、食事や水分制限が緩和され、スポーツや旅行が可能になります。また、女性では妊娠出産が、小児では身長が伸びることが期待できます。さらに腎移植1件につき約8,400万円の医療費削減が見込めます。親族間の生体腎移植に血液型はほぼ関係なく、提供者がおられない患者さんは、献腎登録をして透析を続けながら待機して頂きます。

2010年の臓器移植法改正により、御本人の意思が不明な場合においても、御家族の承諾による心停止および脳死下の臓器提供が可能となりました。移植医療は「人が人を助けたいと思う気持ち」で成り立っています。腎移植センターでは、その尊い意思の象徴である腎臓を、確実に腎移植を希望される患者さんに届けるための活動を行います。まず院内の体制整備を図り、臓器提供の意思確認から腎臓の摘出と移植、その後の通院まで当院で円滑に進められるよう、スタッフ一同力を合わせて頑張っております。

院内には院内コーディネーターが多数配置されております。臓器提供や腎移植につきましては、どうぞ担当医、もしくは泌尿器科外来まで、お気軽にお問い合わせください。

3つの腎不全治療(腎代替療法)の比較

	血液透析 (HD)	腹膜透析 (CAPD)	腎臓移植 (生体・献腎)
通院回数	週に3回	月に1回	1～3か月に1回
免疫抑制剤	不要	不要	不可欠
食事・水分制限	多い	やや多い	少ない
旅行・出張・スポーツ	制限あり	制限あり	自由
出 産	極めて難しい	極めて難しい	薬の調整で可能
小児の成長(身長)	成長障害	成長障害	期待できる
社会復帰率	中程度	やや高い	高い
その他の利点	・最も確立した腎不全医療法	・血液透析に比べ自由度が高い	・生体腎移植で血液型の違いはクリアできる ・透析からの解放感

問い合わせ先 泌尿器科外来 TEL: 0853-20-2387





島大病院ニュース 2021年10月

ご報告



図1:眼科外来に設置された222nm紫外線照射装置(矢印)

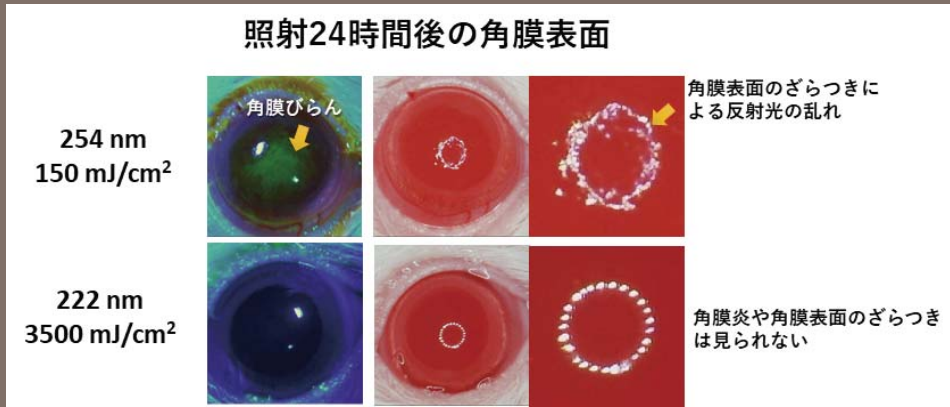


図2:222nm紫外線照射装置の眼への安全性を示す実験結果(ラット角膜)

222nm UVCランプによるウイルス対策を行っています

眼科学講座 教授 たにと まさき
谷戸 正樹

新型コロナウイルス感染症は、飛沫感染、接触感染により伝播すると考えられており、エアロゾルによる伝播の可能性も疑われています。従来行われている消毒剤を用いた清拭による方法では、空気中や表面が平坦ではない機器(キーボードなど)ではウイルス除去が困難です。そのため、紫外線などの非接触型ウイルス不活化技術に注目が集まっています。当院では2020年7月から、救急外来、感染症病棟、眼科外来などに222nm紫外線照射装置を設置し、ウイルス対策を行っています。本装置は、有人環境でも使用できる(1日照射許容量22 mJ/cm²まで)という大きな利点があります。

眼科学講座とウシオ電機株式会社との共同研究で、さまざまな波長の紫外線照射によって誘発された角膜損傷をラットで評価したところ、照射24時間後に角膜損傷を引き起こすのに必要なエネルギー量は、222 nm紫外線の場合5,000 mJ/cm²であり、一般的に殺菌灯として用いられる254 nm-UVC(20 mJ/cm²)の250倍(安全である)でした(図2)。この結果は学術誌に発表され(文献)、また日経新聞などに記事としても取り上げられました。222 nm紫外線がこれまで考えられていたよりもはるかに安全性が高い事が示されたことにより、ACGIH(アメリカ合衆国産業衛生専門官会議)が定める紫外線照射許容量の国際基準が50年ぶりに改定されつつあります。

眼科外来で行われた1年間の前向き研究でも、222 nm紫外線ランプが設置された診察室で診療に携わる6名の医師に眼球や皮膚の障害が見られなかったことが確認されました。また、ランプの有無による細菌・ウイルス抑制効果の直接的な測定も進んでいます。困難な状況を少しでも改善させるための取り組みとして、222 nm紫外線ランプの効果と安全性に関する臨床・基礎研究を進めています。

文献: Kaidzu S, Sugihara K, Sasaki M, Nishiaki A, Ohashi H, Igarashi T, Tanito M: Re - Evaluation of Rat Corneal Damage by Short Wavelength UV Revealed Extremely Less Hazardous Property of Far - UV - C. Photochemistry and Photobiology 2021 MAY 97 (3)、505-516.



2021年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2021年10月

ご報告

世界で初めて!
島根大学発!

歯周病の歯周ポケットは SARS-CoV-2の 感染経路になりうる?

歯科口腔外科・口腔ケアセンター 教授 診療科長
准教授 副診療科長

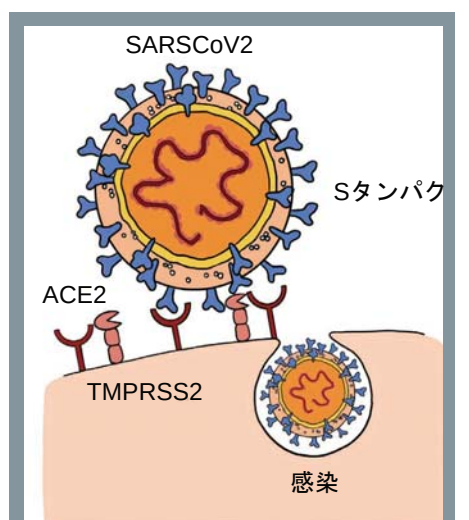
かんの たかひろ
管野 貴浩
おくい たつお
奥井 達雄

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が2019年12月に確認されてから瞬く間に全世界に広がり、大きな混乱を招いております。現在さまざまな新規治療法が世界中で議論され治験が行われておりますが、基本的には個人間の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染予防が実行可能な基本対策であることは明らかであります。

私たち歯科医師は、恐らくSARS-CoV-2が人体で最初に接触することになる、口腔粘膜や歯周組織を専門的に取り扱う医師として、これらの口腔組織がいかにSARS-CoV-2感染に寄与するかを明らかにする責務を有します。現在までに、アンジオテンシン変換酵素2(ACE2)がSARS-CoV-2のウイルス受容体として機能することが明らかになっております。これまで一般的に歯肉におけるACE2の発現は少ないとされていましたが、この度私たちは、非侵襲的な細胞回収法である液状化検体細胞診の技術を用いて歯周ポケットから回収した細胞が、ACE2を高発現することを世界で初めて明らかにしました。歯周ポケットは歯周病原菌の温床であり、歯周炎の発症起点であります。私たちの研究結果は、歯周病原菌が産生する種々のサイトカインが、歯周ポケットにおける歯肉細胞のACE2発現を制御することを示唆しております。以前より歯周ポケットはインフルエンザウイルスやヘルペスウイルスなどの各種ウイルスのリザーバーとして機能することが明らかになっておりますがSARS-CoV-2にも同様の現象が存在関与する可能性は大いにあると考えております。

私たちはさらにこの研究を発展させ、口腔衛生増悪による歯周疾患の発症と進行がSARS-CoV-2感染に寄与する可能性を現在検討しております。これらの研究によって私たちの口腔領域など、特定の部位への局所治療や管理が新型コロナウイルス感染へのリスク低減への可能性が示されれば、COVID-19という現代の医療が最も力を捧げるべき各領域において、当院を挙げての連携体制により、さらなる病態解明と制御に向けて寄与できるのではないかと考えております。

(参考 Okui T, Kanno T, et al: Oral Mucosa Could Be an Infectious Target of SARS-CoV-2. Healthcare (Basel). 9(8):1068, 2021)



新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)はウイルス上のSタンパクと宿主細胞上のACE2、TMPRSS2を介して宿主細胞内に侵入する。
(口腔ケアセンター松田悠平助教の作図)



口腔衛生状態が不良な歯周組織
口腔衛生不良によって惹起される歯周炎は歯周ポケットからのSARS-CoV-2感染を惹起させる可能性がある



2021年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2021年10月

ご報告

感染予防対策を実施しての診療を行っています

救命救急センター センター長 いわた よしあき
岩下 義明

救急外来を利用される皆様へ

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、2021年9月1日現在、すべての患者さんに対して、写真のような感染防護を実施しての診療をさせていただいております。

このファッションをご説明すると・・・

① サージカルマスク

新型コロナウイルス感染症は原則、飛沫感染です。飛沫を出さない、粘膜に付着させない、ことが重要です。人の顔にある粘膜である、鼻と口を不織布マスクで覆うことが感染対策の第一歩となります。

② ゴーグルまたはフェイスシールド

人体の表面にある粘膜は、鼻や口の他に、眼があります。マスクを装着していない人との接触で目からウイルスが侵入することがあります。救急外来では治療に関わる事情でマスクを装着できない患者さんもいらっしゃいますので、医療者は一律、ゴーグルまたはフェイスシールドで対応させていただいています。

③ ガウン

新型コロナウイルス感染症のもう一つの感染経路として、接触感染があります。緊急の場面では医療者が患者さんに身体的に接触する場面が生じます。広範な接触による感染を予防するためガウンを装着しています。

コロナウイルス感染症の感染対策は、無症状の方でも感染している可能性があることが難しいところです。病院内への感染持ち込み防止対策としてご理解とご協力のほどをお願い申し上げます。



島大病院ニュース 2021年10月

ご報告



病態生化学教室の紹介

生化学講座(病態生化学) 教授 うらの たけし
浦野 健

● 教育

分子細胞生物学Ⅰ(医学科1年):最新のサイエンスの流れを踏まえ、医学及び分子細胞生物学に関する講義を行なっています。

生化学実習(医学科1年)・生化学(医学科2年):代謝生化学教室とともに、身体の代謝・病態に関する生化学講義を担っています。

● 最近の主な研究テーマ

- 1) 新型コロナウイルスへのワクチン及び抗体治療法開発 (浦野・成相 裕子 技術専門職員)
- 2) RNA スプライシングによる病気発症メカニズム解明 (尾林 栄治 准教授)
- 3) 白血病原因遺伝子 NPM1 による病気発症メカニズム解明及び治療法開発(坂下 暁介 助教)
- 4) クロマチン(DNAとヒストン)環境のアルゴリズム解析(加藤 太陽 助教)
- 5) 炎症性サイトカイン IL-18 に対する抗体を用いた診断・治療法開発(加美野 宏樹 特任助教)

● 島根大学発ベンチャー 株式会社 mAbProtein

「島根大学の研究成果を研究者・医師、そして患者さんに迅速に届けたい」という理念に基づいて2018年3月20日に設立しました。浦野が長崎大学・名古屋大学、そして島根大学在籍中に培ってきた研究シーズ(特殊な抗体作製技術)を活用して、医薬品となる抗体を中心に開発しています。研究開発の対象である monoclonal antibody(モノクローナル抗体)の略語「mAb」(「マブ」)と「Protein」(「プロテイン」)を融合して「mAbProtein」(「マブプロテイン」)と名付けました。



写真:病態生化学および株式会社 mAbProtein メンバー





島大病院ニュース 2021年10月

ご報告



集合写真(2021.8月の練習会)



練習風景



チームのロゴが入ったTシャツ

島根大学眼科「ゴールボールチーム」を作りました

眼科 診療科長 たにと 谷戸 まさき 正樹

「ゴールボール」をご存じでしょうか?視覚障害のある方が中心となって行われるパラスポーツで、東京パラリンピックでも男女の日本チームが大活躍をしました。3人1チームで、バレーボールと同じ広さのコートの両端からボールを投げ合い得点を競います。使用するボールはバスケットボールと同じ大きさですが、重さは倍で、あまり跳ねない構造になっています。ボールの中には鈴が入っており、ボールを転がすことによって音が鳴ります。選手は、公平性を保つため「アイシェード」と呼ばれる目隠しのためのゴーグルを着用します。ゴールの幅はコートと同じですが視覚情報が完全に遮られるため、聴覚や触覚を駆使してボールの行方を感じ、3人で身体を張って相手ボールのゴールインを阻止します。中四国にはまだ、正式に登録されたゴールボールチームはありません。

眼科では、今年の2月からブラインドスポーツの裾野を拡大するための試みとして「スサノオアイズ」のチーム名で当院の眼科医師・視能訓練士が参加してゴールボールの練習を始めました。アイシェードは、以前から共同研究を行っている山本光学から提供頂きました。練習開始前は手軽なスポーツである印象でしたが、実際にやってみると、体力的にかなり“しんどく”て“痛い”スポーツであることが分かりました。また、目の不自由な方に接することが多い我々にとっても、見えないことの怖さをあらためて理解する機会になっています。我々の活動については、山陰中央新報の取材を通じて記事に取り上げて頂きました(2021年8月30日付)が、この記事に対して日本パラリンピック委員会の河合純一委員長がFacebookで「これも1つのレガシーですね!!応援しています」とコメントして下さいました。まだまだブラインドスポーツが少ない島根県において、興味がある方の受け皿になればと考えています。視覚障害の有無にかかわらず参加を募っています。

問合せ先 眼科学講座 佐野 一矢 TEL: 0853-20-2284



島大病院ニュース 2021年10月

ご報告

企業との共同による 新型コロナウイルス弱毒化対策

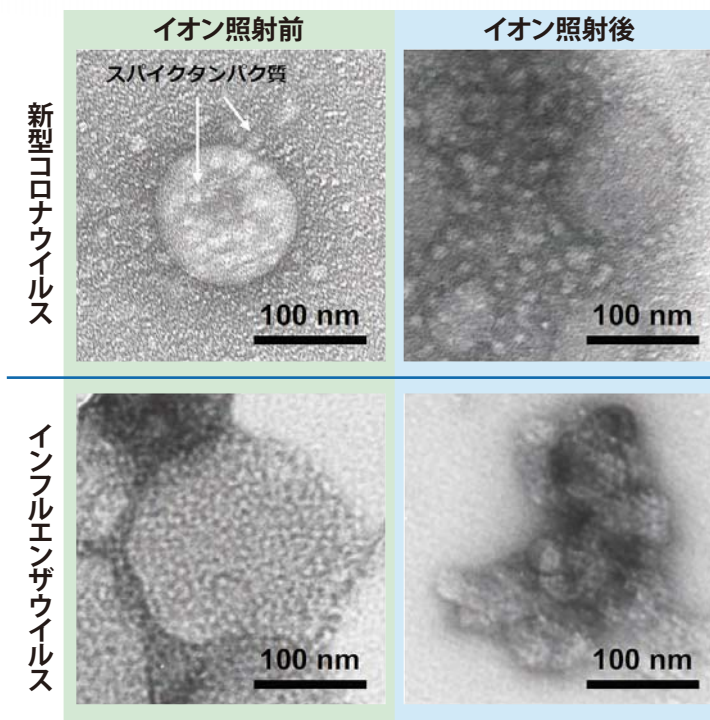
微生物学講座 教授 よしやま 吉山 ひろのり 裕規



微生物学講座はヒトに長期間感染してガンの発生を促す微生物の研究を行なって参りましたが、この度、企業と共同で新型コロナウイルスの消毒法を考える機会がありました。感染初期に使用できる治療薬が無い状況で、免疫による防御が弱い(ワクチン未接種)場合は、ウイルスに接触しない(感染防御行動)か、ウイルスの消毒が有効です。

シャープ株式会社とはウイルスの消毒に関する共同研究を2つ行いました。最初に、酸化タングステンと白金からなる新しい光触媒を用いて感染性の新型コロナウイルスを2時間で99.99%以上減少させました。以前より知られる酸化チタンが日光などの紫外線を含む強い光に当たらないと活性化しないのに対し、この新しい光触媒は、LED照明などの可視光で活性化できます。次に、唾液と混在させた新型コロナウイルスにシャープ製のイオン発生装置を10cmの距離で2時間作用させ、武漢由来の従来型を99.7%、英国由来のα型を99.4%と、感染性を減少させました。新型コロナウイルスは唾液などの粘液が混在しますと、不活性化しにくくなるとともに、机などへ付着して長期間感染性を保ちますので注意が必要です。

ウイルスの物理的・化学的な変性・消滅作用(消毒・除菌)は、新型コロナウイルスに対して、変異にかかわらず等しく防御作用を示すことが確認できました。感染防御行動を地道に実直に行なっていくことの有効性を改めて実感いたしました。



透過型電子顕微鏡像(生体情報部門米山・吉川氏撮影)



2021年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2021年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





(環境マネジメントシステム)

ISO14001の定期審査を受審しました

医学部附属病院EMS対応委員会委員長 こだま たつお 児玉 達夫

島根大学では、環境に関する国際標準化規格であるISO14001の認証を、2006年3月に松江キャンパスで取得し、2008年3月に出雲キャンパスを含めた拡大認証を取得しました。2012年以降は出雲キャンパス単独で認証を更新し、2018年5月にはISO14001/2015の規格要求事項に適合していると認められました。学内組織としてEMS対応委員会を設置し、環境教育・環境研究、エネルギー、生活系、実験系、診療系の各作業部に分かれ、目的・目標を設定し計画を立て、活動に取り組んでいます。さらに、当院内で取り組んでいる医療安全や感染対策などの業務と環境管理活動をリンクして行い、安心安全な医療環境の確立や感染性廃棄物の適切な管理を行っています。

今年は新型コロナウイルス感染症発生の状況下、2020年からの3ヶ年の2年目の年として、去る8月24日～8月26日に認証機関(JQA：一般財団法人日本品質保証機構)によるオンラインでの定期審査を受審したところ、9件がグッドポイントとして評価されました。そのうち、附属病院の取り組み2件について紹介します。1つ目は、放射線部においては省エネルギーの取り組みとして夜間及び休日CT装置を停止することや4台あるMRI装置の稼働を夜間及び休日には1台に集約することによりコスト削減を達成していること、2つ目はNICU(新生児集中治療室)・GCU(新生児回復治療室)では病棟のリニューアルに合わせて感染予防のための環境、患者さんと家族に優しい環境を作るため、「おむつ交換時と哺乳時の接触予防策としての床の色分けによるゾーニングの採用」「収納スペースを床から30cm上げることによる汚染防止」「高頻度接触部位の消毒、クリーンベンチ内での点滴作成、患者さんごとのカート使用による感染予防のための配慮」「壁紙を白から緊張を和らげる優しい壁紙へ変更し、間接照明による心落ち着く空間の構築や各患者ゾーンにはスポットライトを設置し、個別に治療やケアを行える機能性」といった取り組みを行っていることが評価されました。そのほか、改善の機会8件を外部審査員より指摘頂きましたので、今後の活動の推進に活かして参ります。

